

JFPF は、1974 年に世界初の人口・開発問題に関する超党派議連として設立されました。

国際社会における日本外交を牽引してきた歴史と伝統を誇る議員連盟として、世界的連帯による様々な難問の解決が求められている今日、ますます重要な役割が期待されています。

毎号「JFPF コラム」や「ニュース」にて、人口と開発に関わるご活動・取り組みについてご紹介いたします。

ニュース:

- 若者の参加推進のためのアジア国会議員と若者の世代間対話 - Part II

【編集責任: JFPF 事務局】

ニュース

若者の参加推進のためのアジア国会議員と若者の世代間対話 - Part II

6月2日、JFPF事務局を務めるアジア人口・開発協会(APDA)は、UNFPAアジア太平洋地域事務所(APRO)並びにY-PEERと共に、「若者の参加推進のためのアジア国会議員と若者の世代間対話 Part II」を開催しました。アジア太平洋諸国の国会議員、人口と開発に関する国内委員会(NCs)代表、Y-PEER所属の若者など、タイ・バンコクの会場には30人以上が参集し、オンラインでは110人以上が参加しました。

冒頭、国光あやの衆議院議員が開会挨拶を行い、新型コロナ対応における若者の活躍に触れ、若い世代が可能性を最大限に発揮できる機会が重要であることを強調し、この世代間対話の成功を祈念しました。

続いて、タイの Jetn Sirathranont 議員 (AFPPD 事務総長) が、若者の参画を促すタイの取り組みを紹介し、若者のエンパワーメントには質の高い教育が重要であると述べました。Klaus Beck UNFPA APRO 地域事務所長代行は、新型コロナが若い世代に与える影響について説明し、各国は若者の多様なニーズ、特に疎外されている若者のニーズに応え、彼らの可能性を広げるべきであると提唱しました。



セッション1では、昨年 Part I のフォローアップとして、ネパールの Lakey Tshering 氏 (Y-PEER) が、昨年採択された「提言」について説明を行いました。Part I を通じて、参加者は若者の有意義な参加¹に対する理解を共有し、優良事例や課題を見出し、対処するためのアイデアを議論しました。その際、優先すべき点として、政治的枠組みの実現、ニーズ主導の改革、包摂性の3つが提示されました。

続いて、参加者は少人数グループに分かれ、自国での若者の有意義な参加に関する進展と課題について議論を行いました。アジア太平洋地域の多くの国では、若者の参加に関するプログラムが実施され、進展が見られることが報告されました。

討議では、ジェンダー・インクルージョン(性差によって排除されないこと)、メンタルヘルスの問題、LGBTQI+の権利も取り上げられました。現行の政策や法律はまだ十分ではなく、改正の必要があること、意思決定プロセスにおいて発言権が確保されていない少数者グループが存在すること、社会から疎外された若者には様々な分野で機会が与えられていないことが指摘されました。参加者からは、若者の有意義な参加のために適切な意思疎通の手段を確保すること、政府が啓発広報や財政援助などのサポートを提供すること、という2つの提案が示されました。



セッション2では、若者に関する政策や立法に取り組む国会議員の役割を取り上げました。タイの Virasak Kohsurat 議員・元社会開発・人間の安全保障副大臣は、環境を整備し、若者と一緒に政策を形成し、信頼を築くことが重要であると強調し、そのためには「忍耐強く、礼儀正しく、オープンであること」という3つの言葉で締めくくりました。

¹ 「若者の有意義な参加」の定義は、「思春期及び青年期の若者の有意義な参加とは、思春期及び青年期の若者と年長者との間の包括的、意図的かつ相互に尊重し合うパートナーシップが実現できることである。その際、若者の持つ能力が活用され、その貢献が評価され、彼らの生活やコミュニティ、国、世界に影響を与えるプログラム、戦略、政策、資金調達メカニズム、組織実行のための計画・実施に、若者のアイデアや視点、スキル、強みが統合されることである。」 <http://meaningfulyouthengagement.org/wp-content/uploads/2021/06/MAYE-Statement-%E2%80%93-English.pdf>

国際人口問題議員懇談会 (JFPF)

創立:1974年4月1日

会長:上川陽子 衆議院議員(第7代)

会員:74名
(2022年6月29日現在)

事務局:(公財)アジア人口・開発協会(APDA)

TEL: 03-5405-8844

FAX: 03-5405-8845

Eメール: apda@apda.jp

HP: <http://www.apda.jp>

セッション3では、コロナ禍における若者の参画というテーマの下、フィリピンの Irene Gay Saulog 議員は、若者の参画について考える際には、“若者の参加人数”で判断するのではなく、“意思決定プロセスにおける若者の役割を見る”という、大きな転換(パラダイムシフト)が必要であると話しました。そして、教育が問題解決の最善策であり、若者への投資とは、若者が恐れずに自由に自分の声を伝えられる場を設け、自分たちの未来に対するオーナーシップ(当事者意識)を持てるようにすることであると述べました。続いて、タイの児童青少年育成評議会議長である Dusadee Thirathanakul 氏が、コロナ禍におけるタイの若者の貢献について発表を行い、具体的な優良事例である「AI マスク」を紹介しました。

セッション4では、若者と国会議員が複数のグループに分かれ、若者を巻き込むための各国の事例を共有し、今後各国政府が採用できる仕組みについて、それぞれリストを作成しました。参加者は、(1)草の根レベルから若者の有意義な参加を可能にすること、(2)特に農村部で能力開発プログラムを実施すること、(3)若者が関与するための若者議会/協議会や、その他のプラットフォームを設置すること、(4)若者の草の根運動に対して、利用しやすい補助金や資金を提供することが必要である、という点で合意しました。

翌3日には、参加者は国際家族計画連盟(IPPF)のタイの加盟協会であるタイ家族計画協会(PPAT)を訪問し、若者参画プログラムについて説明を受けました。PPATは、若者のためのHIV予防促進プロジェクトを実施しており、HIV/AIDSの知識を広め、スティグマ(負のイメージやレッテル)を取り除くよう尽力しています。多くの参加者は、PPATの若者参画の取り組みが非常に参考になったとコメントしました。また参加者は、孤児院であるRajvithi Home for Girls Operation Centerにも訪問しました。



2日間のハイブリッド会合と視察を通じて、Y-PEER代表の若者たちと国会議員、NCs代表の間の交流が深まり、信頼関係が育まれ、提言のさらなる実行を促進する契機となりました。これまで大きな成果が得られたとはいえ、残る課題を克服するには国会議員と若者の双方の取り組みが重要であることを確認し、プログラムを終了しました。

【メディア掲載】

Meaningful Dialogue Amplifies Youth Issues, Leads to Change

<https://www.ipsnews.net/2022/06/meaningful-dialogue-amplifies-youth-issues/>



公益財団法人アジア人口・開発協会 (JFPF 事務局)

TEL: 03-5405-8844 FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp Website: <http://www.apda.jp>



本ニュースレターは、国際家族計画連盟 (IPPF) 並びに
賛助会員の方々のご支援を受けて発行しています。